

第61回全日本野菜品種審査会 「コマツナ(秋まき冬どり)」が開催されました

野菜作物研究部

平成22年12月16日に、当センターで日本種苗協会主催によるコマツナ(秋まき冬どり)品種審査会が開催されました。

品種審査会は、全国の種苗会社が育成した品種(もしくは品種になる前の系統)を全国各地の公立の試験研究機関が栽培し、栽培面や収穫物の特性を競います。

今回は12社の種苗会社から24系統が出品されました。

平成22年10月25日に種子を播き、保温、防風及び害虫防除を目的として、トンネル栽培(目の細かいネット(0.6mm目合い))を行いました。種子を播いてから12月16日の審査会当日まで、どの品種・系統も順調に生育しました。

審査の結果、入賞系統はいずれも生育の揃いがよく、収穫作業に適した葉の形や姿を持ち、葉色の明るい系統が選ばれ、栽培しやすさと高い商品性を兼ね備えていました。

入賞品種一覧

順位	品種・系統名	種苗会社
1等特別賞	IN-BK32	渡辺農事(株)
2等	W5311	(株)渡辺採種場
2等	W8362	(株)渡辺採種場
3等	MSX-998	(株)武蔵野種苗園
3等	NS-083	野原種苗(株)
3等	C0-027	(株)サカタのタネ
3等	KAJ002	カネコ種苗(株)



審査風景



1等特別賞「IN-BK32」

切り花の連続出荷の検討

果樹花き研究部

直売所で人気が高い切り花は、新鮮で花持ちが良いのはもちろんのこと、家庭で飾りやすいサイズや形で、季節に合わせた色々な花が望まれています。

そこで栽培の経験が少ない生産者でも、簡易に少量・多品目栽培に取り組みやすい育苗箱を使った栽培について検討しました。

35cm×55cm×10cmの大きさの育苗箱に、あらかじめ基肥として被覆燐焼安加里(エコロング424-70)を用土1L当たり2gの割合で混ぜて、箱に10L程度詰めます。箱に直接播種して1箱当たり50本に間引きます。間引きまでは雨よけハウス内で管理し、間引き後は露地に移動して、散水チューブで2~3回/日の頻度で自動かん水します。

ケイトウ「一本立ち久留米かがやき」とヒマワリ「サンリッチマンゴー」の試験では、播種から約2ヵ月で収穫できるので、5月下旬から8月上旬にかけて計画的に播種をずらすことで、切り花の連続的な出荷が可能になりました(表)。夏の露地では、ケイトウ・ヒマワリの他の品種や、千日紅、ジニア、コスモスなどにも同じ方法が利用できます(表)。

また、基肥量によって切り花のボリュームが違ってきますので、品目ごとに基肥量を工夫することで消費者の好みに合ったサイズを目指すことができます。

表

播種時期と収穫時期

品目	品種	5月		6月		7月		8月		9月		10月	
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
ケイトウ	一本立ち久留米												
	かがやき												
ヒマワリ	サンリッチマンゴー50												
コスモス	ベルサイユピンク												
ユーホルピア	氷河												
千日紅	オードリー												
ケイトウ	ピンクイン												
	センチュリー												
ジニア	スノーボール												

■ 播種

■ 収穫